

やませ地帯における露地レタスの作型

民部田 武雄・高橋 義尚・中村 正輝・工藤 啓治郎

藤沢 修*・中村 毅**・白木 正範***

(岩手県園芸試験場高冷地開発センター・*岩手県園芸試験場・
岩手県立農業短期大学校・*二戸農業改良普及所)

The Type of Cultivation for Lettuce in the Open Field in the Easterly Winds "YAMASE" District

Takeo MINBUTA, Yoshinao TAKAHASHI, Masaki NAKAMURA, Keijirō KUDŌ,

Osamu FUJISAWA*, Takeshi NAKAMURA** and Masanori SHIRAKI***

(Highland Cool-zone Development Center, Iwate Horticultural Experiment Station・
*Iwate Horticultural Experiment Station・**Iwate Prefectural College of Agriculture・
***Ninohe Agricultural Extension Service Station)

1 は し が き

岩手県北部沿岸のやませ地帯は、夏期冷涼、秋期温暖な気象条件にあり、低温性作物であるレタスの栽培には好適な条件下にある。特に本県における7～8月の夏どりレタスにおいては、内陸平坦地では高温の影響で栽培が困難であるが、やませ地帯の「ヤマセ」の発生するこの時期は、旬別平均気温で23.1℃以下の気温であり、温度条件からみるとレタスの安定した栽培が可能であると推察される。

このやませ地帯特有の気象条件を生かし、レタスの長期生産出荷の可能性について検討したので、その結果を報告する。

2 試 験 方 法

本試験は「ヤマセ」の影響を強く受ける現地において実施した。試験年次は昭和54～57年の4年である。は種期6月18日、7月20日の試験と晩播限界試験については麦性地区試験地で、その他の試験は浜岩泉地区試験地で試験した。

(1) 試験場所

- 1) 久慈市侍浜町麦生 やませ地帯等営農試験地麦生地区試験地
- 2) 下閉伊郡田野畑村浜岩泉 やませ地帯等営農試験地浜岩泉地区試験地

(2) 供試条件

- 1) は種期及びマルチ種類

表1 は種期及びマルチ種類

は種期	マルチ種類	は種期	マルチ種類	は種期	マルチ種類
3月25日	9230 N " B	6月18日	9230 B " WB	8月1日	9230 B
4月25日	9230 B	7月10日	9230 B	8月10日	" "
5月20日	" "	7月20日	" "		

注. N: 透明フィルム, B: 黒色フィルム,
WB: 白黒ダブルフィルム

- 2) 供試品種 マイレタス

- 3) 面積及び区制 1区18m² 1区制

(3) 耕種概要

育苗法 ペーパーポット育苗

- 2) 栽植距離 120cm×30cm, 2条(5,555株/10a)移植栽培

- 3) 施肥量(kg/10a) N-12, P₂O₅-26, K₂O-12

3 試験結果及び考察

(1) 作型別収量

作型別収量調査については表2に示した。

①3月下旬は種、6月中旬収穫の作型では障害球の発生もなく、一個当り球重が506g、10a当り収量2,811kgであった。規格別収量においても中心規格のL級が66%占め品質にも優れた。

②4月中旬は種、7月上旬収穫の作型も球重501gで障害球もなく、収量2,783kg、L級53.3%と安定した収量を得た。この二つの作型はもっとも安定していた。

③5月中旬は種で8月中旬収穫の作型は、やませ気象の影響を最も強く受ける作型で、低温、少照、多雨の影響を受け、生育日数も多くかかり、腐敗、不結球の障害球もそれぞれ15%発生した。球重も394gとやや軽くなる傾向にあり、収量は1,531kgと少なくなっているが、夏どりレタスの目標収量1,500kgを越える結果を得た。

④6月上旬は種、8月下旬収穫の作型では結球期から収穫期が高温時に当り、黒マルチ区では球重が軽く収量も低いが、白黒ダブルマルチ区では球重355g、収量2,366kgとなり、目標収量の1,500kgを越える結果を得た。また、この作型での腐敗、不結球、抽台はなかった。

⑤7月上旬は種、9月下旬収穫の作型では腐敗、不結球の障害球が19%も出たため、収量は1,648kgにとどまり、この作型の目標収量2,000kgを下回った。球重は362gと軽い傾向にあったが、球径による規格割合では2LとL級で全てを占め緊度の劣る球が生産された。

⑥7月下旬は種、10月下旬収穫の作型では腐敗球が10%出たが、球重が600gと重く、10a当り収量も3,600kgと多収を示した。

表2 作型別収量

作 型	年 次	試験地	は種期 (月日)	マルチ の種類	収穫期 (月日)	全重	球重	球 径		障 害 球 率 (%)				収 量 (kg/10a)	目 標 収 量	同 左 対 比 (%)
								タテ	ヨコ	腐敗	不結球	抽台	計			
1	55	浜岩泉	3.25	透明	6.16	896	506	15.6	16.5	0	0	0	0	2,811	2,500	112.4
			"	黒	"	849	504	16.0	15.3	0	0	0	0	2,880	"	112.0
2	55	"	4.25	黒	7.8	1,192	501	15.3	16.8	0	0	0	0	2,788	"	111.3
3	56	"	5.20	黒	8.17	855	394	14.0	15.5	15	15	0	30	1,531	1,500	102.0
4	54	麦 生	6.18	黒	8.17	616	265	14.1	13.7	0	0	0	0	1,766	"	117.7
			"	白黒	"	688	355	13.4	14.8	0	0	0	0	2,366	"	157.9
5	56	浜岩泉	7.10	黒	9.26~ 10.5	686	362	13.5	14.2	13	6	0	19	1,648	2,000	82.4
6	54	麦 生	7.20	黒	9.28	978	600	14.0	15.3	10	0	0	10	3,600	"	180.0

(2) 作型とマルチの種類

春まき作型の3月25日は種での透明マルチと黒マルチの比較では、透明マルチ区が球重、収量においてまさった。

また夏まき作型の6月18日は種での黒マルチと白黒ダブルマルチの比較では、白黒ダブルマルチ区が球重、収量においてまさり、規格別収量においても中心規格L級が黒マルチ区で22.3%なのに対し白黒ダブルマルチ区は43.4%と品質的にもまさった。

このほかの作型では5月中旬は種と7月上旬は種において白黒ダブルマルチの効果が期待されるほかは黒マルチで

充分対応できる。

(3) 秋どりレタスの晩播限界

やませ地帯の秋期温暖気候を利用した秋どりレタスの晩播限界について検討したが、7月20日は種では56年は球重559g、収量2,795kgと良結果を得たが、57年には腐敗30.7%発生し、収量は1,616kgと下がった。

8月1日は種では57年に球重623g、収量3,460kgと7月20日は種区を上回る結果となったが、8月10日は種では、56年、57年とも収量が下がる傾向にあり、56年では球重が234g、収量780kgとなって、品質・収量とも劣った。

表3 秋どりレタスの晩播限界

年 次	試 験 地	は 種 期	収 穫 期	全 重	球 重	球 径		障 害 球 (%)				収 量 kg/10a	比	目標収 量(2000 kg)との 比
						タテ	ヨコ	腐 敗	不 結 球	抽 台	計			
56	麦生	7.20	10.15	1,184	559	12.0	13.5	0	10.0	0	10.0	2,795	100.	139.7
		8.1	10.30	797	381	11.1	11.3	10.0	0	0	10.0	1,905	68.2	95.2
		8.10	11.18	410	234	—	—	10.0	30.0	0	40.0	780	27.9	39.0
57	麦生	7.20	9.16	664	420	13.8	12.6	30.7	0	0	30.7	1,616	57.8	80.8
		8.1	10.18	1,032	623	12.9	15.7	0	0	0	0	3,460	123.7	173.0
		8.10	11.19	722	345	12.5	13.3	0	0	0	0	1,916	68.5	95.8

4 ま と め

やませ地帯の気象を生かした露地レタスの作型として、は種期を3月下旬から7月までの組み合わせにより、収穫を6月中旬から10月下旬まで、長期間収穫できることが明らかにになった。収量においても目標収量、春レタス2,500kg、

夏レタス1,500kg、秋レタス2,000~2,500kgが確保できることも確認された。

マルチの種類は、3月下旬は種で透明マルチ、4月中旬は種は黒マルチ、5月中旬は種から7月上旬は種では白黒ダブルマルチ、7月中旬以降では黒マルチがよい。

秋どりレタスの晩播限界は8月上旬と推定された。